貳内譚編

柳亭種彦著
孟斎芳虎画

錦昇堂版

へ13
3728
2

文久
二春菱
市

大内譚

第三集

上帙

繪彦作芽とゝ画

[illegible]
[illegible]
園陸居士
山口法麻子
[illegible]

江戸の都
大内譚
三編上
芳虎画
猩彩作
三編下
錦昇書房

門へ13
3728
巻 2

鄙廼都三編

壬戌初春

下帙

柳亭著
芳虎画

青屋發兌

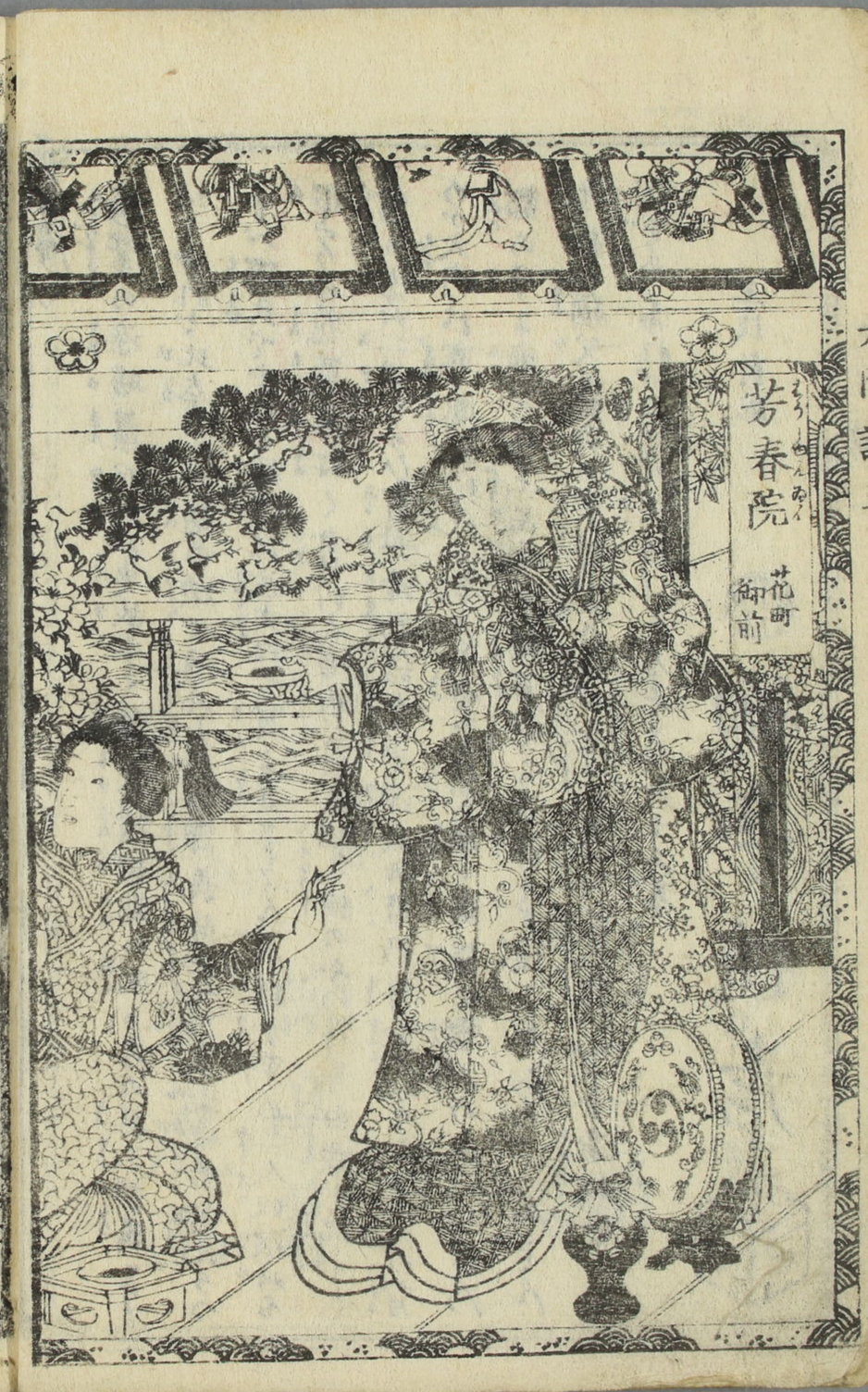
序一

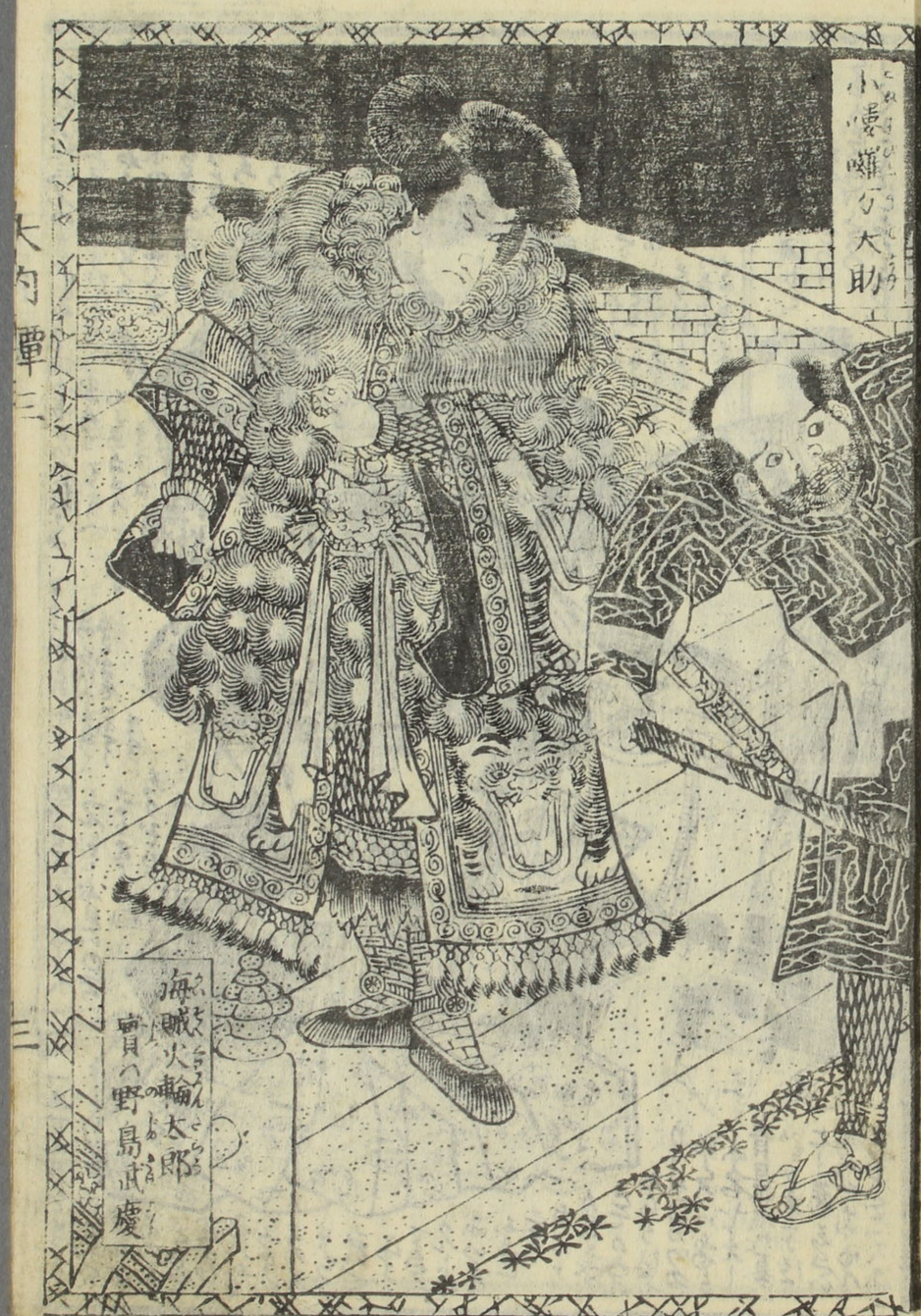
倩此条の染暖薫脱色ぬ吏故ゆく讓受續貂鄙の面のもの其文類屬ず
ゆうざれど比奈比外題の頭ゑ喚此大内の譚義隆卿の公家叔好者繒ひらつ
さべ輝氏でゆ色と問屋ゑ注文ひ亡實ゑ其ゑたうんべの野于平の二人奴彼此も
但こうの花菖蒲好く書川と喝采られく那八橋のもの物ゆう由縁と比しく
當りゆ六一世のこひ有與隆物語業平源氏の君乃外女のゆうゑ貴人の有
のゑ大内ゑ寶鳳劔時代のちゑを頑ゑれど漸々画様ゑ雲上めこのしむゑ乃
都の男ゑ東ゑ上品向ゑ編員ゑこのゑ絵ゑ後ゑぞ初ろしめさん
本編ハ猶父義興の家督定の辺ゑ花ゑハ菩と比ゑし染物ゑ
下ぞめゑれば色光沢ゑ比ゑ

壬戌新彫

柳亭種彦

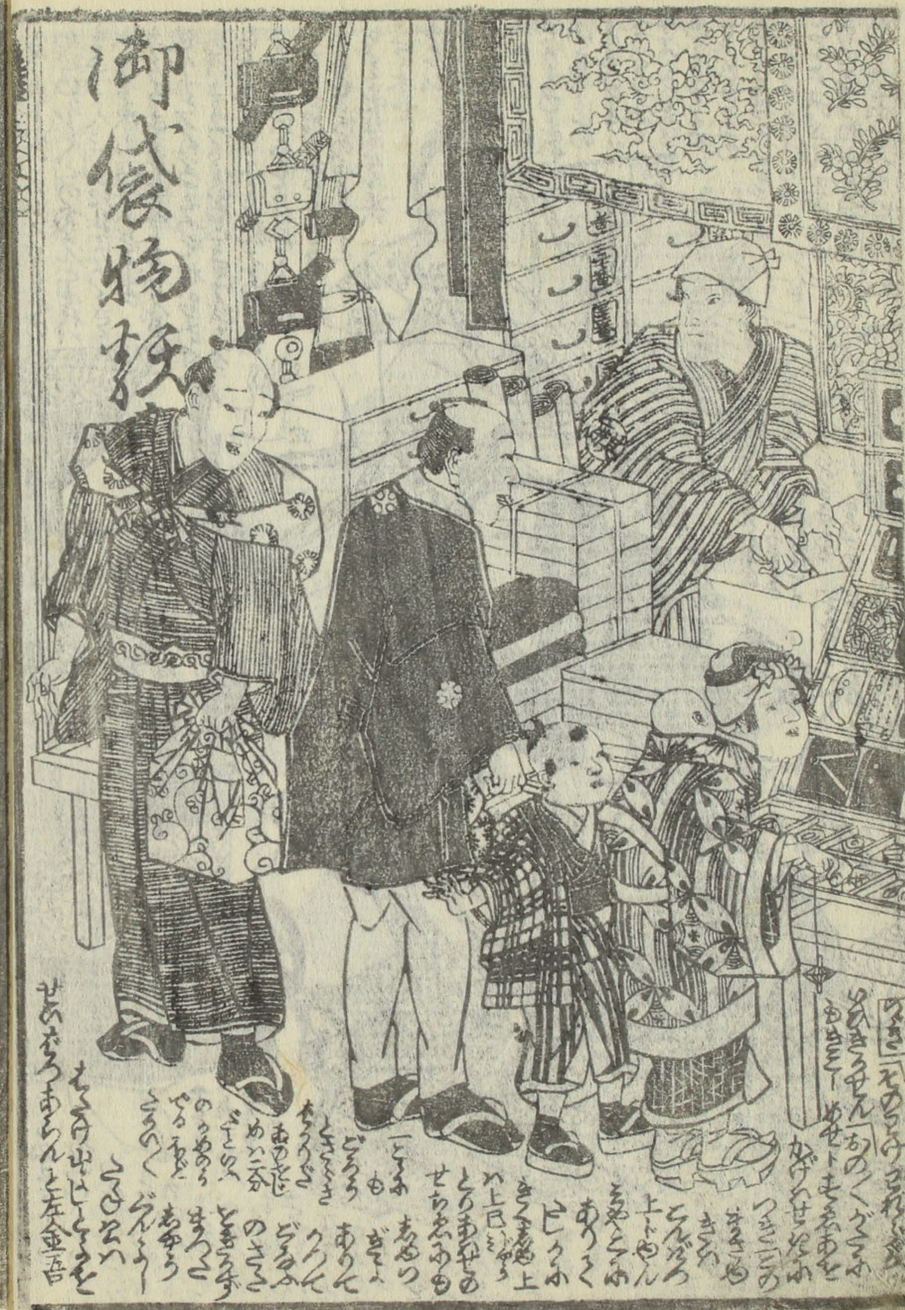
豊容尼
都の前
遊女
花恩

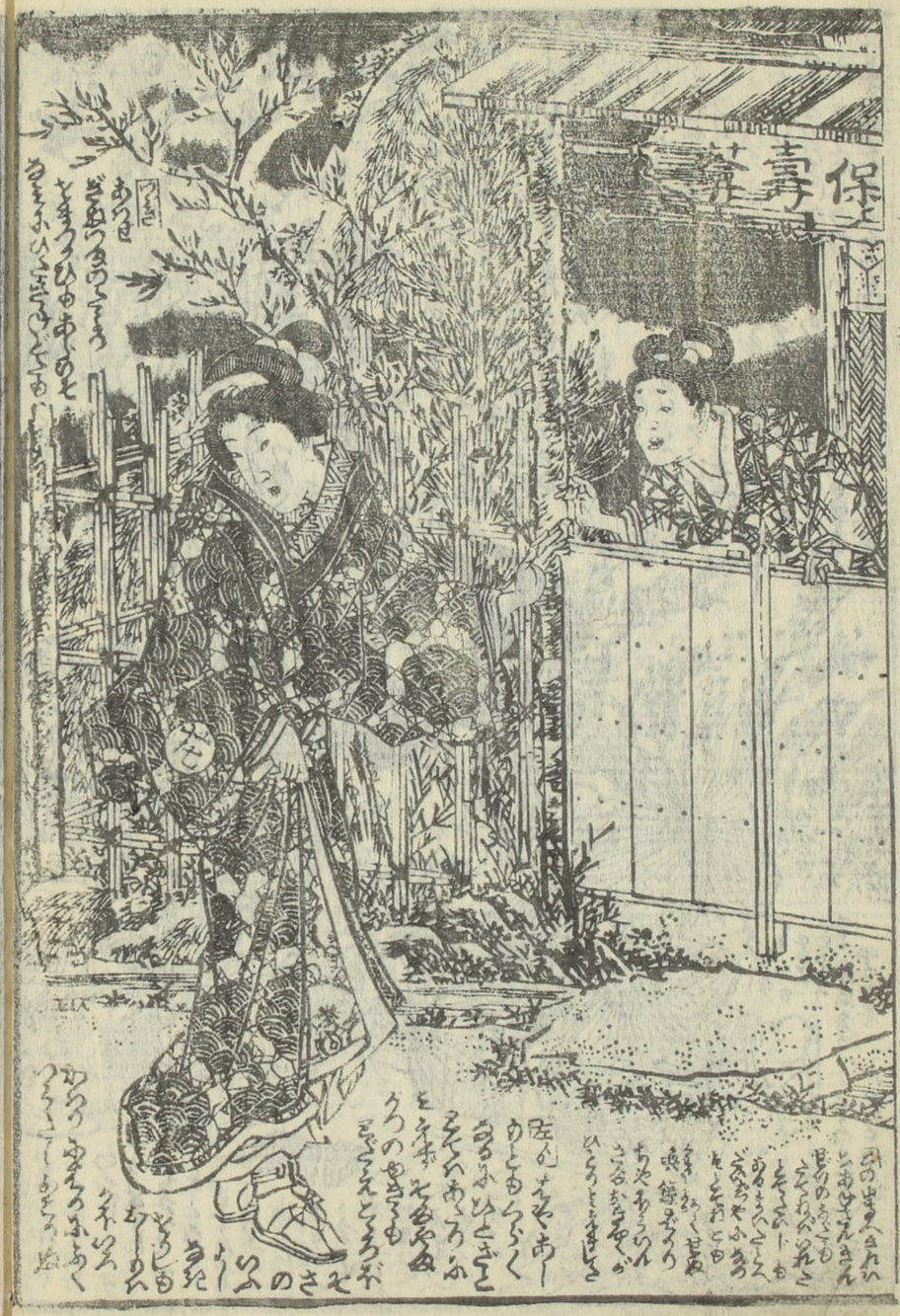

芳春院
花町
御前


小憚嚬の大助
海賊火輪太郎
實は野島武慶

滝の法泉寺鳥食狙顔
遊小太郎家の大悪臣
今泉判官隆豊

町
亀
鯛
彈


御代後物語


保寿軒

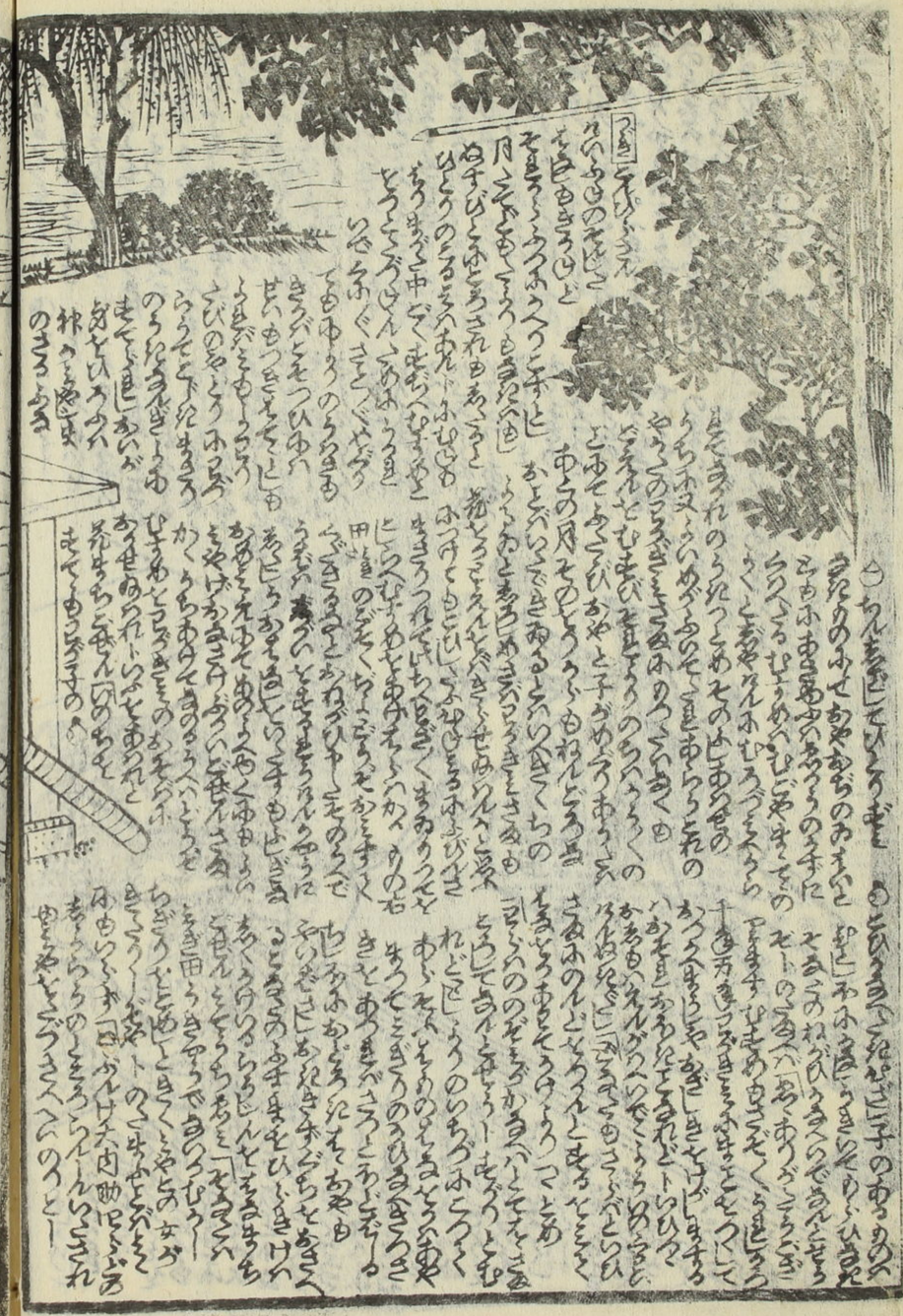
潛行せん
微服
げきとのんぐく

春霞閑四望
花樹恵風芳

壮学一歩
町

町
右
左

花



人のあせをゆてとをもけうくろの
ちゑ小ゑ

萬延二辛酉春新彫目錄

竹雀千代哥　西馬補案國輝画圖

聖德太子大和鏡　万亭應賀作　壽齊國貞画

三鱗形鎌倉双帝　西馬作

雲龍九郎倫盗傳　故人三馬遺稿　増補西馬案　画工一勇齋

金地本草紙問屋　てりハ堂画　笑壽屋庄七版

大内譚

四編

上帙

柳亭作
一猛齋畫
錦昇文庫

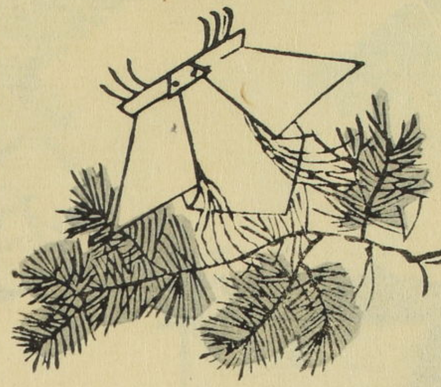
比奈の都
四編上
錦昇堂梓
大内譚
種彦作
芳虎画
四編下

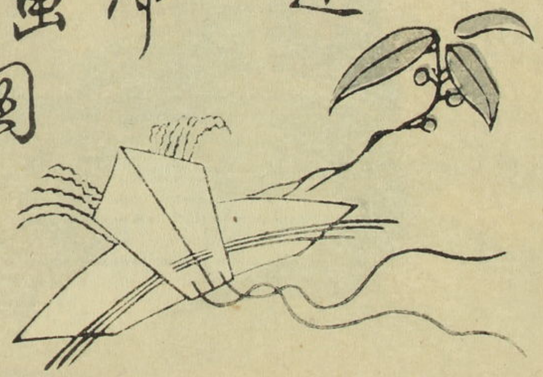
大内もの語

四編下帙

柳亭著述

芳屋国圖





錦昇堂

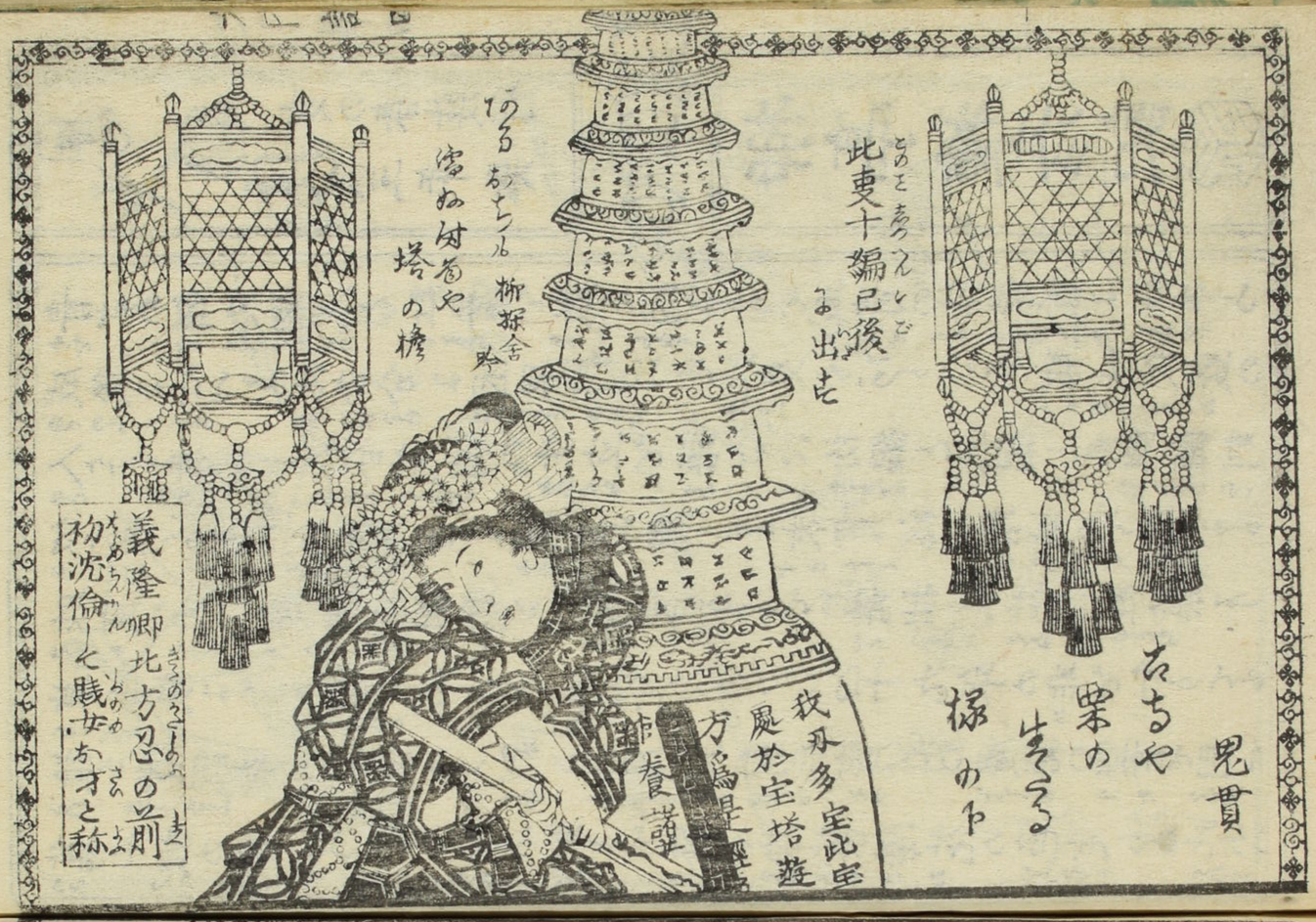
壽梓

蔦や楓の青こがらしも秋ふ到りて絳く染紫陽花の色定らぬ此ホハ誰も賞翫されど後々剥る正月詞前后齊もぬ漫語ハ空言で固と草全紙ゐ看人いこのぐ海容たぬつも四十九年の非を知りてる昨夜ハ大に兼相と謝罪るも酒客ゐ〳〵ぞハ甚拙〳〵花や紅葉り似て非ゐまバ白きハ白く黒きハ黒きと末貫徹バ傾城の方便ゐる人ゐ乗らず此昏花岡の生立を語るに初編と三編との齟齬刻成後ゐ心づゐ此云分ゐ困果引出を比叟もの〳〵べこそ那味挾藍の青ざゐ顔又慚入く紅葉と散を因ゐよりて血奇の話巻首ゐ説半つ

第一

文久三年癸亥の春發行

柳亭種彦記


鬼貫
おちるや
栗の
生そろる
椋の下
此更十編已後
出る
我丸多宝此宝
塔遊
義隆卿北方忍の前
初洗倫しを賤女おすと称

義隆卿辟妻
東の方

陶麟三郎持長

持長妻唐津

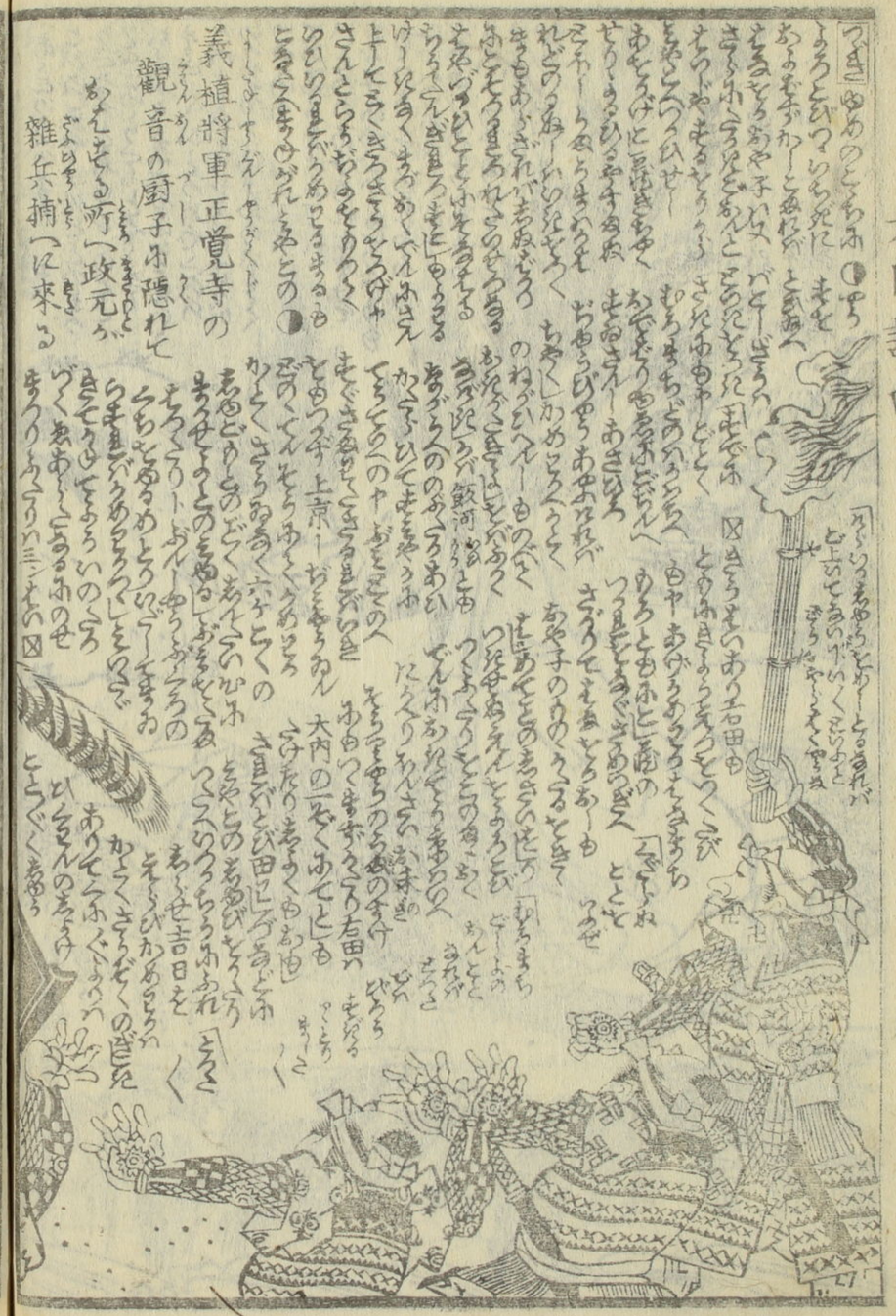
「ふるさと」さんで
あてこすりす
ひと「保寿菴」
あるぐく
ぬまこね
これとを
つるのそこ
うくゝ
そろふひとさ
さびどあや
子のそばいひだむ
うりがんはえくれ
そこをさのふくまね
あさびあふまさ
そのふろこびねあせ
ぎぬうそうなくりそふ
つそう〇三人ひとくく
そあのあちをも
とうこと

「の資財
ぎのそを
そこに
のこあと
こるとを
とる

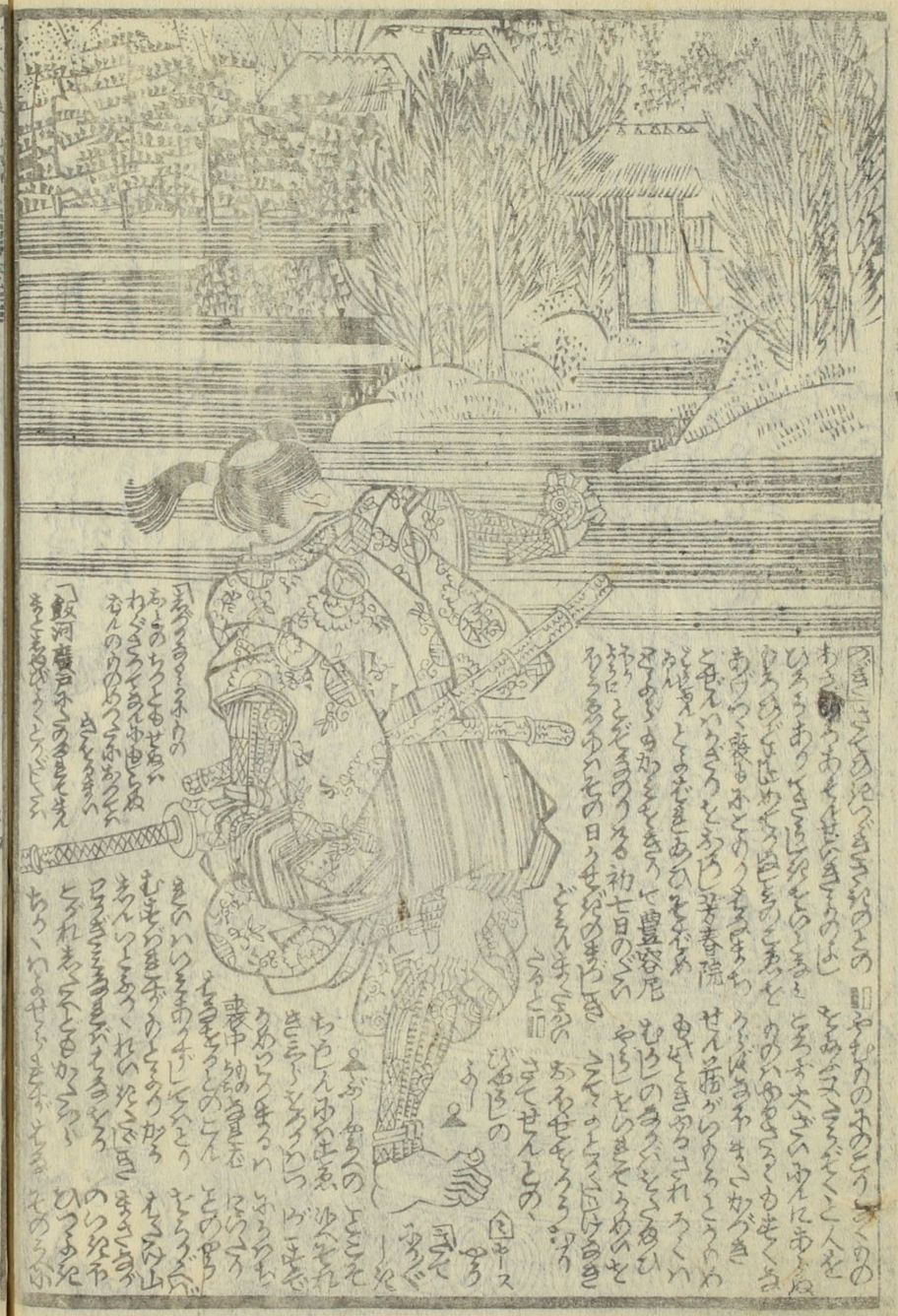
「あくとのえのふろ
とびねあぐこえとこのふろ
ふさあるとあるのくのとと
とぐこふとくふとあくきて
ちくあぶうあがかれるまいろ
きぐくひとろめぐこのの
とのえるをとろかろがの
ろのろとあろかのえくく
つぬれあゝいとくろ
てのあふまうをゝい
ひとろのあさあれどまるで
こぐ子ふかぐくらしいぬゆも
ちのあところぐあれち
のらくのあるゝとおく
であのうふをくもある
まいトのてあふこと
たれうこまい
いあく次ゝ

「日中一食
あるゝ
ろゝくく
てあんん
ぬるくて
ぐきる
とこと
こと
旦

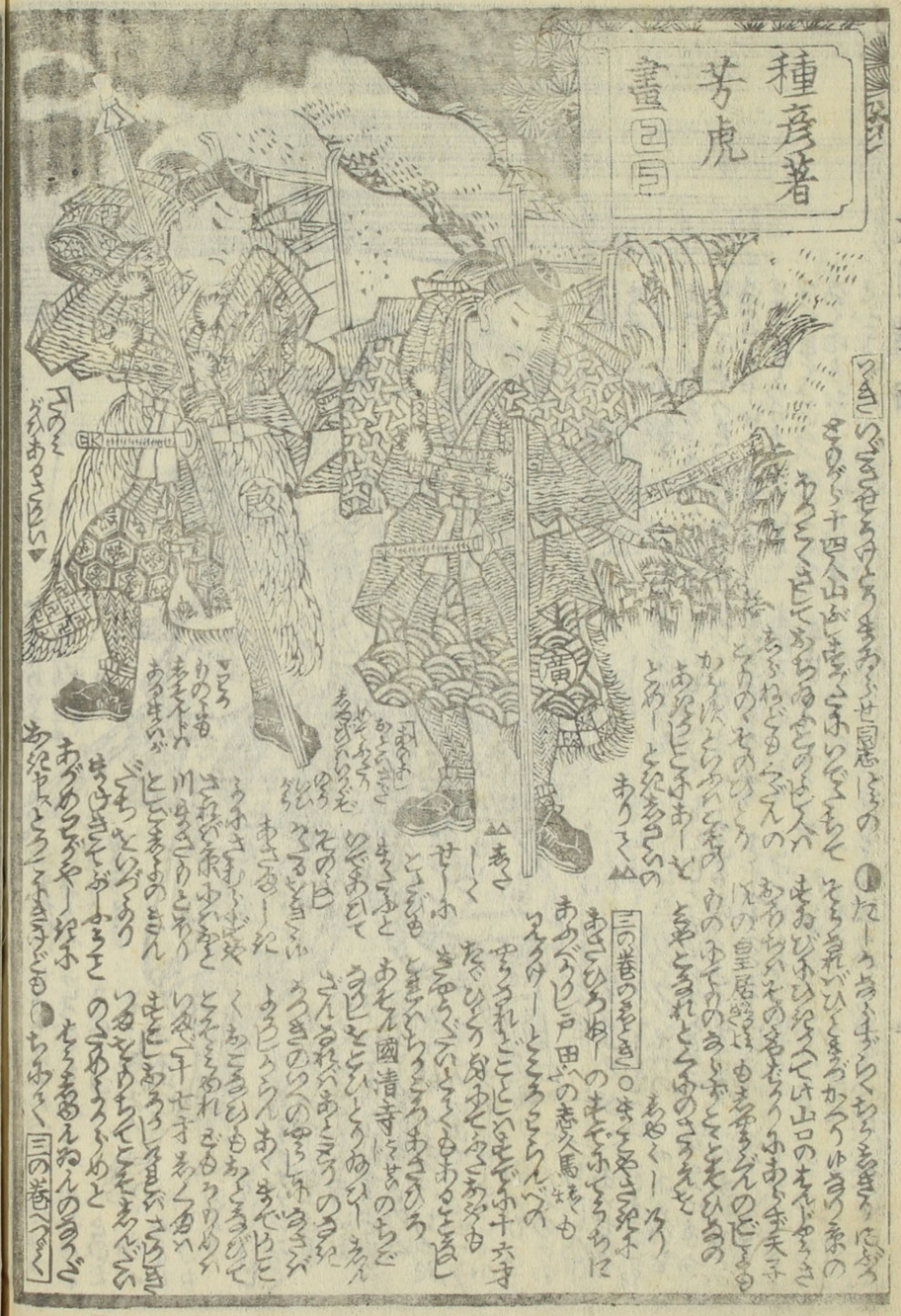
亀久沙弥梵良
四十二章経を授る



武将義植卿



種彦著
芳虎
畫



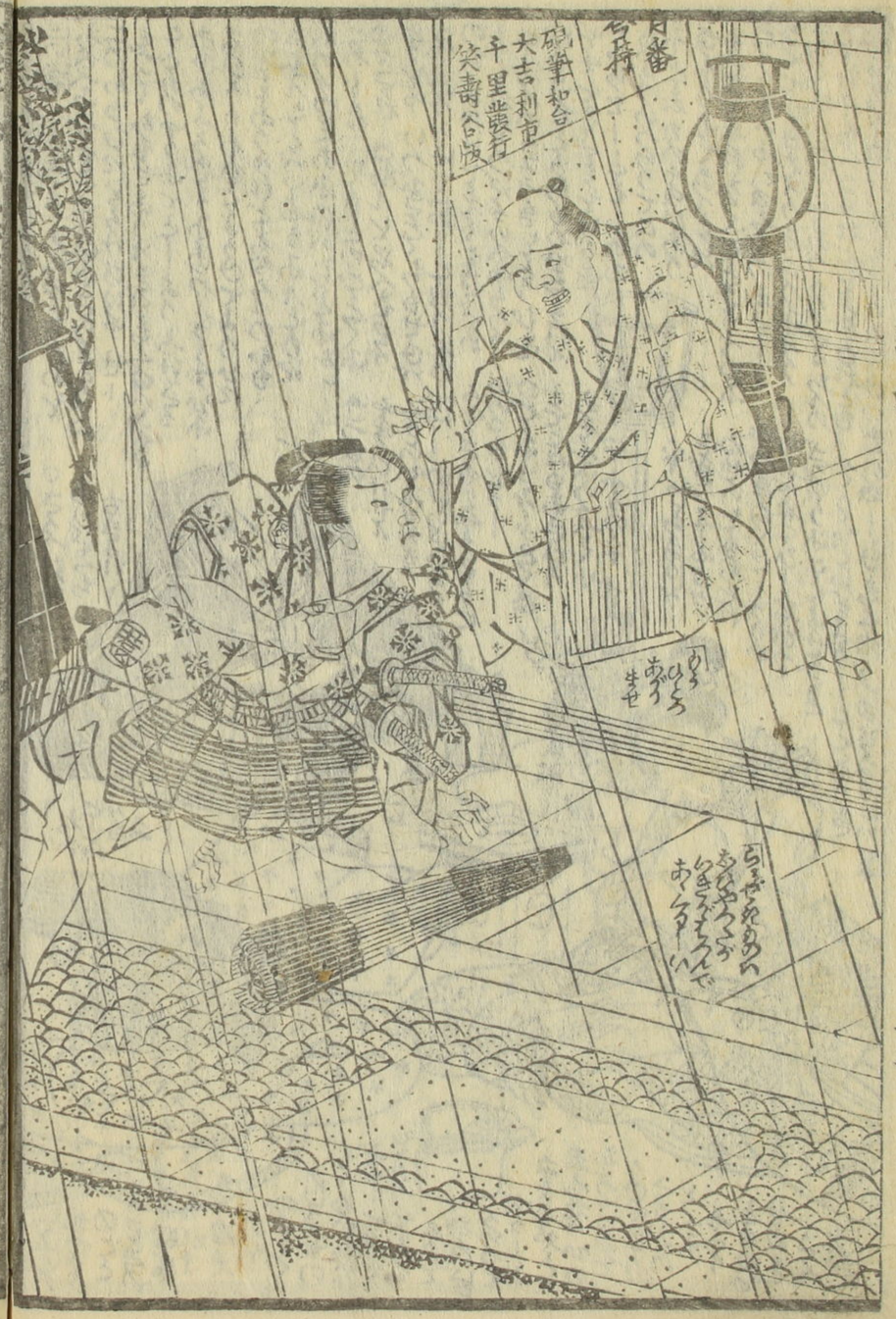
三の巻のまとめ

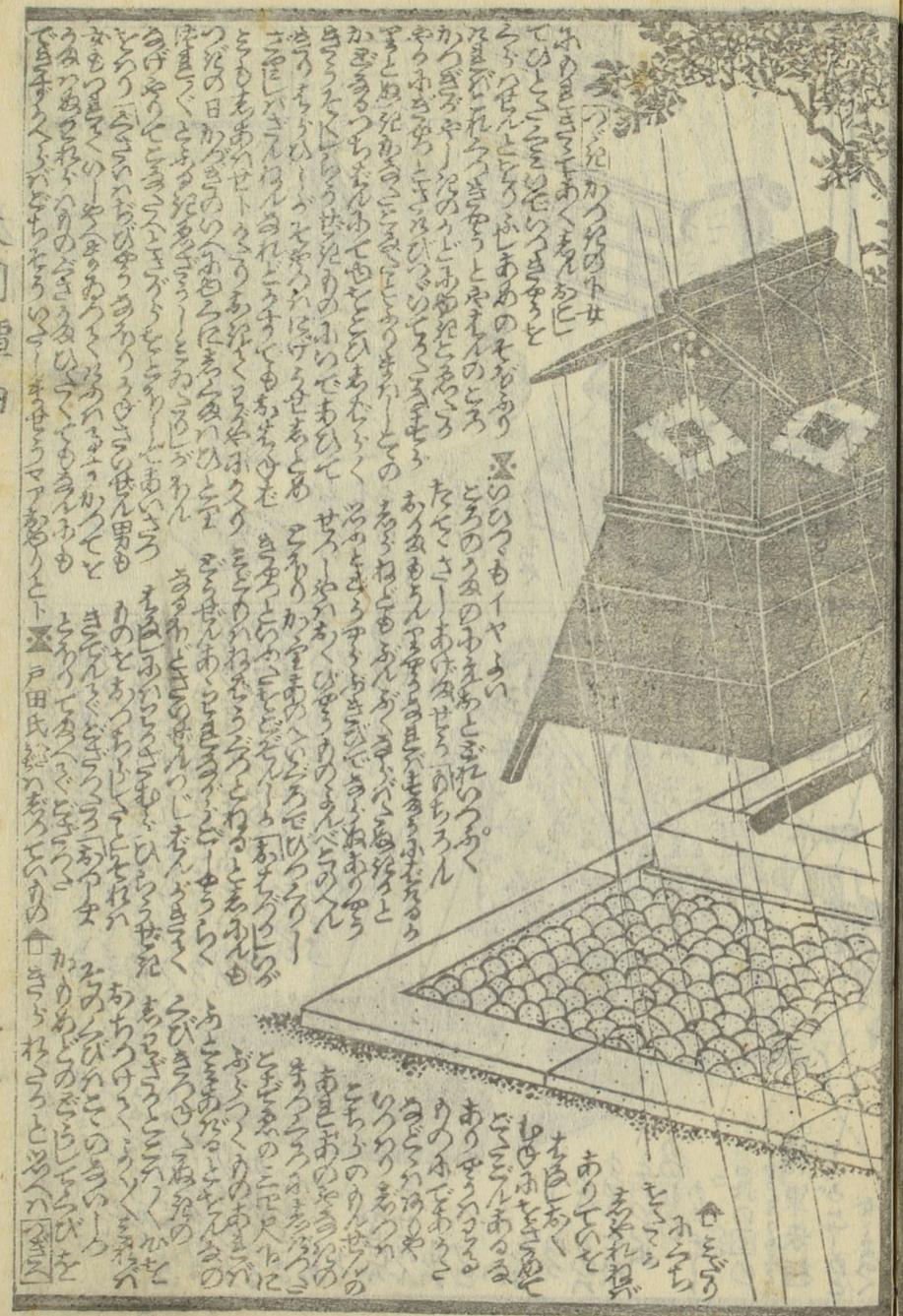
○さてもさてもかの
あらくつめさまとさうのふさうとまとめと
とのあるもれをとうけひ仁ゆ
もづくあをせあらをまがをとらぐ
とどりのすちみとーしょう
あはみあうぞうもあつーうぶひふ
ひろうりもいとうろてうひ
のそをあうをれどあるをそのおも
きをんとをばつをうみんとのに
あのづをあふのふちどふをし
とあくをーとのとのどてはふ
ゆうをれーどあんとをくをうう
きとゆいつぎをてうもせのば
なありづとかーとあうをの
のちうのひをとをうをてあ
あうくあいうひをづりふうう
とんのんのさうづきとうひを
びををれどあかめかをうれん
をすてをづをんをけがを
いうちをーをうめの
夜ようのううてうの
ふどをかのをひあう
をあうをんとを
まをいとつれなくとうべふ
ねくをづゆをうのをーを
ゆくとト日をうふゆうふう
をくをんをうをくるをんの
とうふゆをうとをあうをれとも
ひよをうくをひくるををのつ

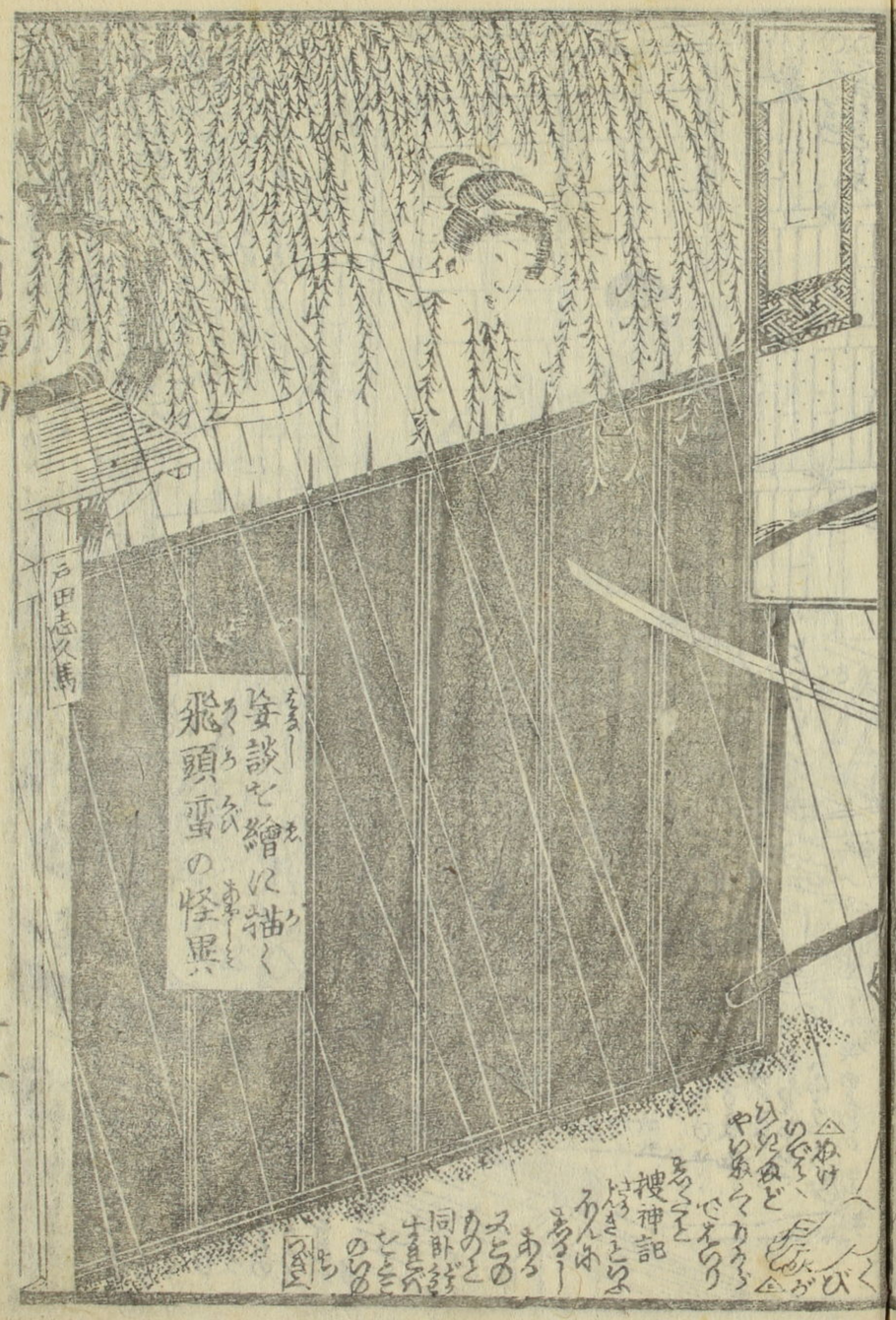
○さうづをのあをくをつ

三の巻のまとめ

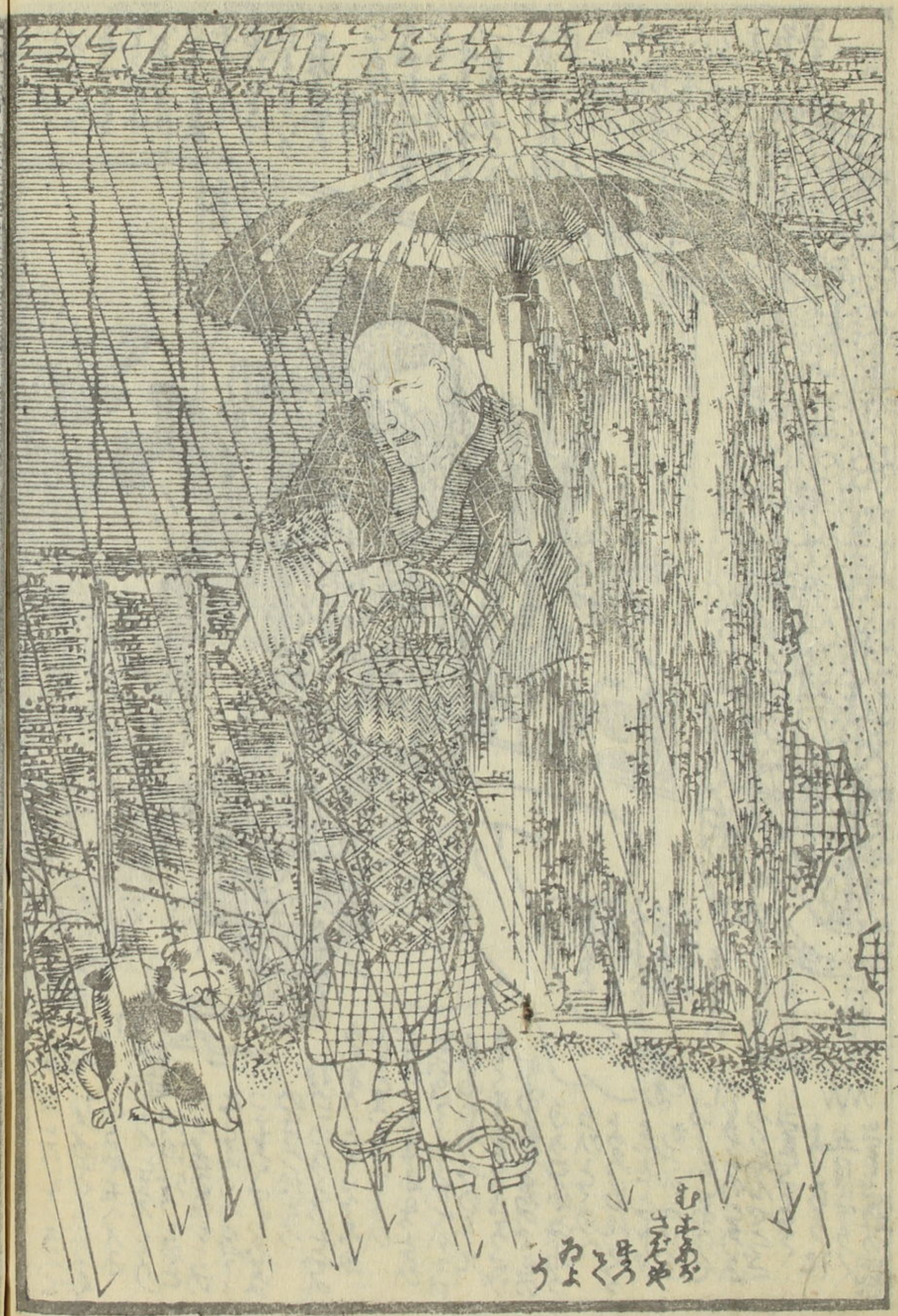
○さうづをのあをくをつめさまとさうのふさうとまとめと
とのあるもれをとうけひ仁ゆ
もづくあをせあらをまがをとらぐ
とどりのすちみとーしょう
あはみあうぞうもあつーうぶひふ
ひろうりもいとうろてうひ
のそをあうをれどあるをそのおも
きをんとをばつをうみんとのに
あのづをあふのふちどふをし
とあくをーとのとのどてはふ
ゆうをれーどあんとをくをうう
きとゆいつぎをてうもせのば
なありづとかーとあうをの
のちうのひをとをうをてあ
あうくあいうひをづりふうう
とんのんのさうづきとうひを
びををれどあかめかをうれん
をすてをづをんをけがを
いうちをーをうめの
夜ようのううてうの
ふどをかのをひあう
をあうをんとを
まをいとつれなくとうべふ
ねくをづゆをうのをーを
ゆくとト日をうふゆうふう
をくをんをうをくるをんの
とうふゆをうとをあうをれとも
ひよをうくをひくるををのつ

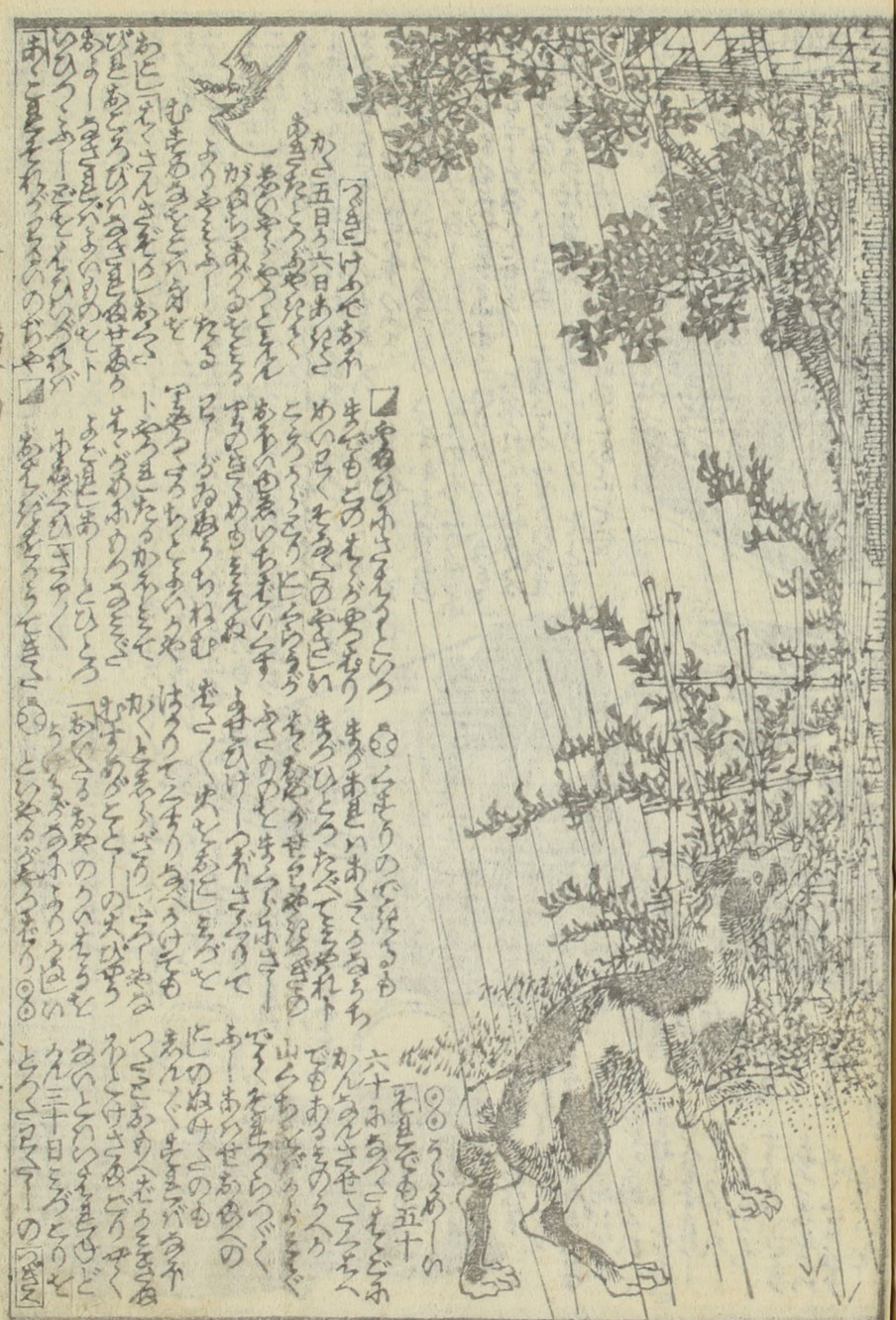

月番
台持
硯筆和合
大吉利市
千里紙屋
笑壽谷版

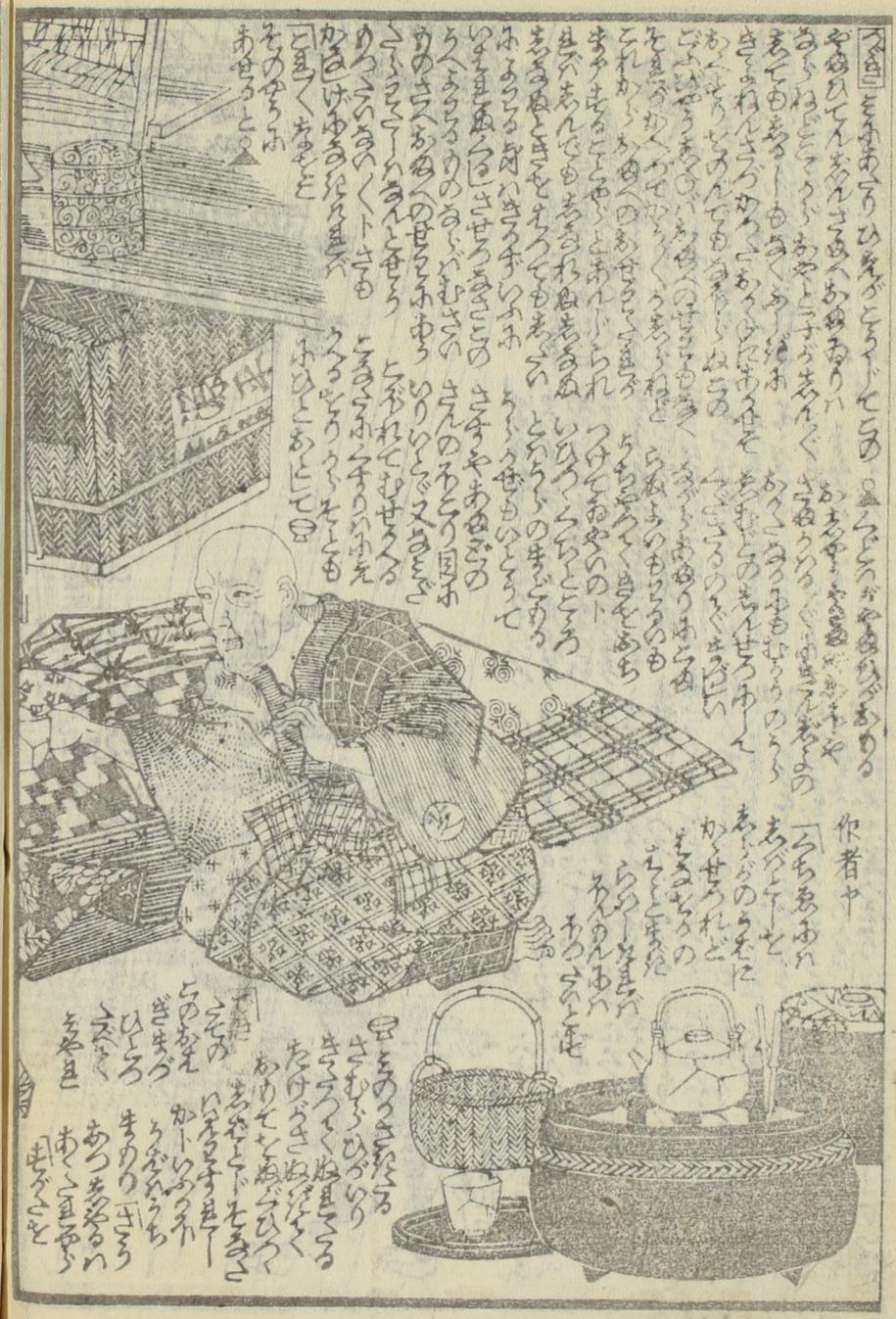



妄談を繪に描く
飛頭蛮の怪異

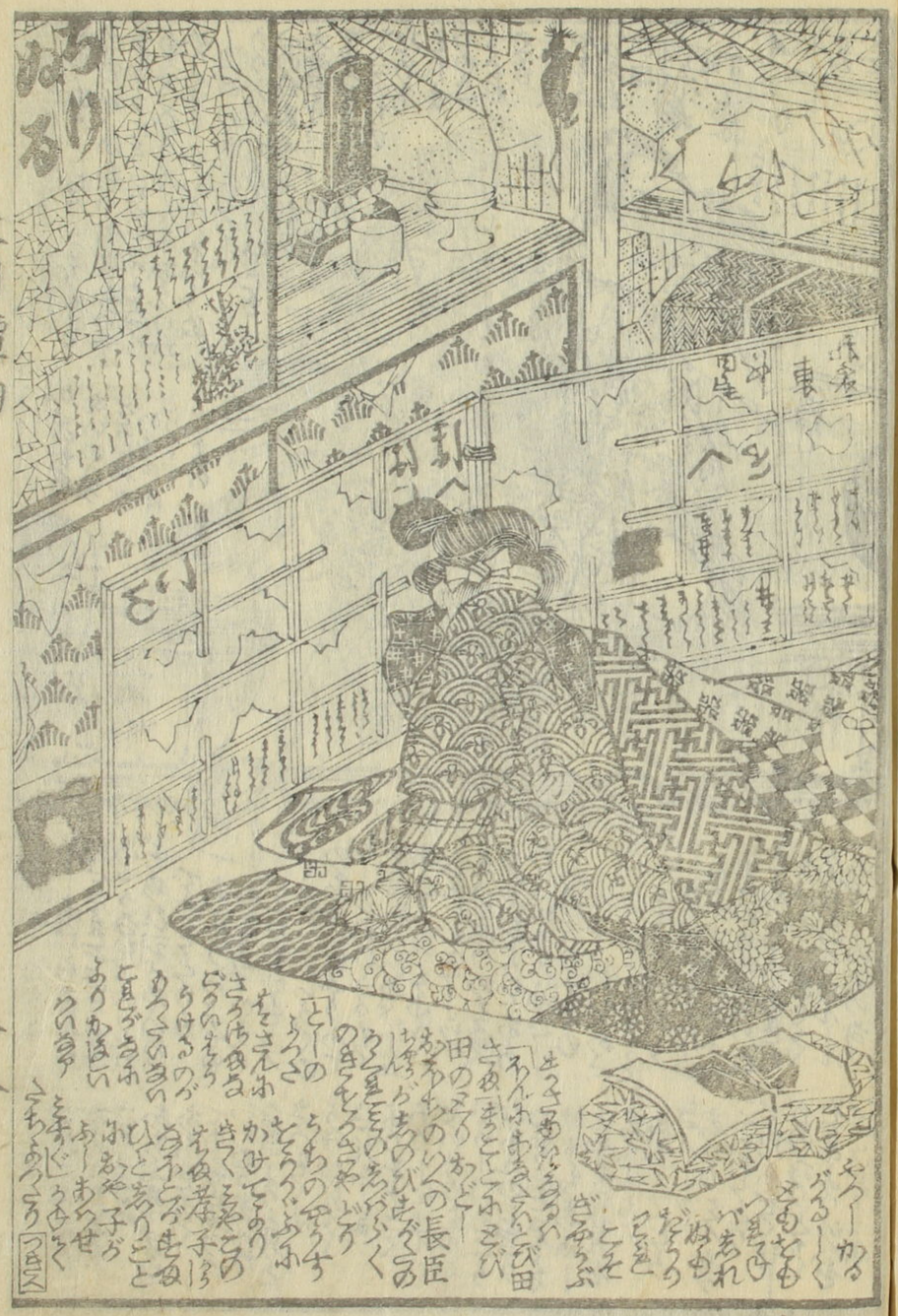
其四

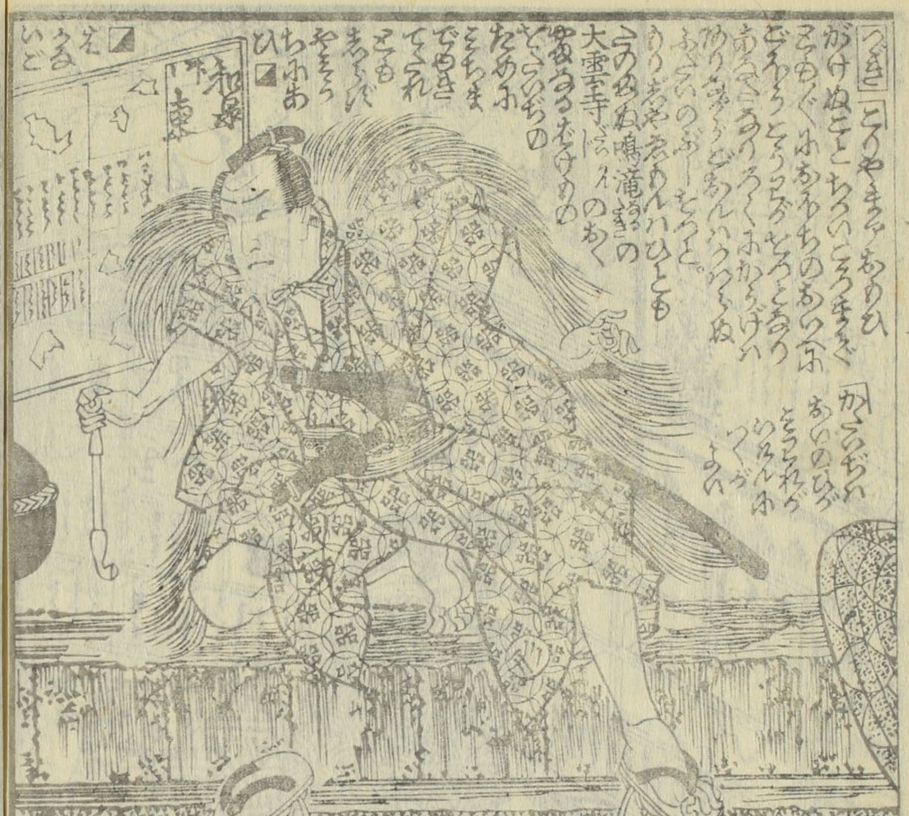


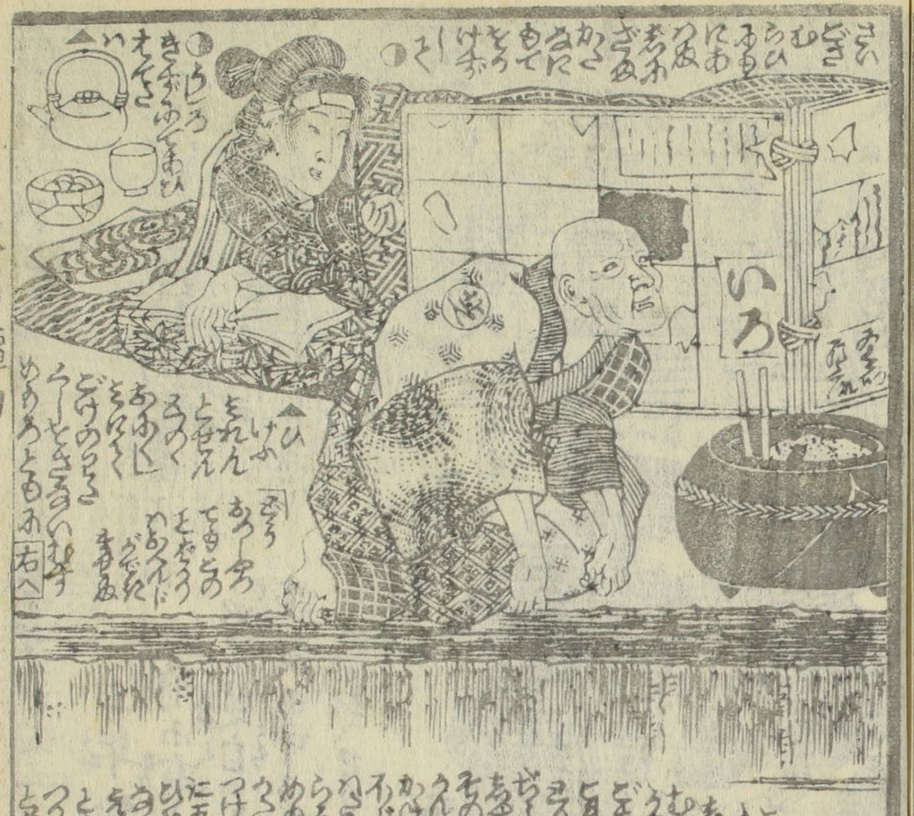




作者や






いろ

○此所画撰い

三年餘の以前ゐ有一夫

談話の中ゆ

種彦作
芳斎畫

萬延二辛酉春新彫目録

竹雀千代呼　西馬補案　國輝画圖

聖德大子大和鏡　万亭應賀作　青木國貞画

三鍬形鎧倉双帝　西馬作

雲龍九郎倫盗傳　故人三馬遺稿　増補西馬案　画工一勇齋

金地本草紙問屋　てりはの画　笑壽屋庄七版

四編

比奈乃都大内譚

種彦作

芳虎畫

錦昇堂梓